

ロシア地方選挙結果とアレクセイ・チェスナコフ氏のコメント

2010年9月のモスクワ出張時に面談し、ロシアの改革動向について詳細な説明を頂いたアレクセイ・チェスナコフ（Алексей Чеснаков）氏は、同氏が所長を務める政治動向センターのホームページに毎週「середине недели（週央にて）」と題するコラムを執筆している。これはロシアの政治動向について簡潔にまとめたうえで論評を加えたものである。この種のロシアのメディアは数少ないため今後適宜参照することとする。

【解説】

3月15日に投票が行われたロシアの地方選挙では与党統一ロシアが圧勝したが、同党の平均得票率が46%と半分を切り、期待を下回ったことから、ロシアの政治アナリストの中には12月の連邦議会選挙における統一ロシアの苦戦を予想する声が出ている。特に地方政府、地方自治体は人的に統一ロシアに支配されており、圧倒的に有利な立場にありながらキロフ（36.7%）、ツヴェル（39.8%）のような非常に低い得票率を記録した地区もあり、統一ロシアの最大の武器である党首プーチン氏の人気の低下、地方における現政権に対する不信の高まりを指摘する報道も見られる。これに対し、チェスナコフ氏は統一ロシアの顧問としての立場から、今週の政治動向センターの週報「週央にて」において単純な比較による議会選挙予想を批判し、システムの異なる選挙の原始的比較は意味が乏しいと主張している。

【週央にて(2011.3.16)】

ロシアの政治動向の最大の関心の的は、日曜日に行われた地方選挙の結果だった。地方選挙結果は向こう5年間のロシア政治の方向性を決定づける12月の連邦議会選挙のキャンペーンが開始される前に、各政党の実力及び潜在力を分析するための最後の機会であった。

選挙管理委員会の報告により選挙結果の概要は明らかになりつつある。メディアが繰り返し報じているように、獲得議席の割合は、統一ロシア：68%、共産党が：13%、公正ロシア：8.4%、自由民主党：6%、愛国ロシア1.8%であった。

今後注目されるのは、各党の選挙対策専門家が今回の投票結果をどのように分析するかである。それを注意深く見ることによってキャンペーンの進め方も見極めることができるだろう。

最も効果的ではあるが、しかし最も難しいのは過去の選挙結果と選挙キャンペーンのあり方を

適切に比較することである。また、今回の得票率を連邦議会の過去の比例代表制の得票結果と比較し、それをもとに12月の議会選挙の予測をしようとする「専門家」もいる。その一方で、システムの異なる地方選挙と連邦議会選挙を機械的に比較することは適当でないという専門家もいる。議会選挙は2007年以降完全比例代表制で行われているが、3月13日の地方選挙は12の選挙区のうち11の選挙区で複合システムによる投票が行われた。

単純で原始的な比較アプローチは理論的にも実際的にも正当化されない。傾向を適切に評価し、比較しうるもの同士を比較すべきである。厳密には同一制度のもとで行われた投票結果のみが比較可能であり、その場合も選挙民の人口動態的特性を十分に考慮すべきである。そうすることが将来的動向を的確に予想し、意味の無いマインドコントロールに墮すことを避けるための唯一の方法である。選挙の参加者である政党（もし彼らが本来の政党であれば）にとってみれば、そのような選挙結果の解釈と風評との恐ろしい戦いは彼らの専門の仕事の一部ではあろうが。

いくつかの地域における3月の選挙結果をもとに将来の連邦議会選挙を予想しようとする専門家には、単に競合する政党（野党）によって雇われたのかもしれない。彼らのロジックに従うと比例代表制の連邦議会選挙と多数決主義の地方選挙の比較も意味を持つことになる。真に意味のある比較を行うためには、単なる得票率だけではなく、それぞれの政党に対する全ての票を考慮することが必要だ。3月13日の選挙で統一ロシア党が獲得した票を単純に数えると、同じ地区で行われた前回の選挙結果よりも70万票以上増えている。

以上